

ドクターNAKAMURAの 健康道場



Vol.41 主婦・近藤姫 「私が糖尿？」

「近藤さ～ん」私はパニックに陥っていた。看護師さんに呼ばれても返事をする余裕すらなく、荷物をワシ掴みにし、診察室に入りました。

10日前ごろから、何かおかしいと感じていました。それが3日前から確信に変わりました。とにかく左の乳房が痛いんです。明らかに左右差がある。左が張って痛い。授乳時に胸の張りは経験していますが、あれから優に10年は過ぎています。なぜ今頃！？喫煙していたら乳癌のリスクが上がるとテレビで言っていました。まさか！乳癌？

考えてみれば、私って本当にクジ運が悪かった。幼いころからいいことには当たったことがないのに、悪いことは一番に当たる。まさか！

「先生、左のおっぱいが痛いんです。癌ですか？覚悟はできています。本当の事を言ってください。」

覚悟なんてできているはずはな

いのに。癌と分かったら、どう自分を支えたらいいか分からないくせに「覚悟はできています。」と言ってしまった。空気に過ぎなかった。でも本当は乳癌になりたくないという心の奥深くからの叫びでした。

「本当の事を教えてください。」

「近藤さん。乳腺炎です。」

「え？、こんなに痛くて、こんなに張っているのに？癌じゃないんですか？」

「糖尿が原因ですね。」

「本当に癌じゃないんですか？」

「ヘモグロビンA1cという1-2ヵ月の血糖の平均値が12.6%です。6.5%を超すと糖尿です。糖尿病になるといろんなところで感染症を起こします。黴菌が簡単に生えるのです。一応、ドレナージと言いますが、黴菌を排泄する処置はしますが、専門のクリニックで糖尿病の治療を受けてください。」

腰が抜けた。癌じゃないんだ。なんだ。癌じゃなかったんだ。と思う一方、えっ糖尿？まさか、私が！！

私は近藤 姫。38歳。生活習慣病なんて足の臭いおじさんのなる病気と思っていた。まさか自分の身に降り注ぐなんて思いもしませんでした。

そよかぜ 循環器内科・糖尿病内科
(県立中央病院 前)

院 長 中 村 陽 一